

第 4 期森林づくり県民税活用事業の進捗状況と課題について

1 趣旨

第 4 期森林税（令和 5～9 年度）が開始されてから 2 年が経過し、各事業の進捗にも差が生じているほか課題も見えてきているものもある状況。

目標達成に向けてみんなで支える森林づくり県民会議の構成員の皆様からご意見をいただき、令和 8・9 年度の事業執行に反映していきたい。

2 森林づくり県民税活用事業の現状と主な課題について

(1) 取組の進捗等に課題のあるもの

■ 主な事業の進捗状況（5か年の目標・概算事業費に対する令和 5・6 年度の実績計の割合）

項目	事業進捗率（※）	予算執行率
人工造林・初期保育の嵩上	17% (23%)	22%
防災・減災のための里山整備	21% (50%)	38%
あたりまえに木のある暮らし推進事業	35% (40%)	12%

※各年度の目標通りに事業が進捗した場合の令和 6 年度末時点の事業進捗率

ア 再造林の加速化

- 主伐・再造林に対する認識・取組に地域的な偏りが生じており、目標面積に達していない。
 - ⇒ 中長期的な視点から森林づくりを進めることが重要なことから、各地域の実情に合わせた取組が進むよう事業者に対し丁寧な説明を重ね、引き続き目標達成に向け取り組みたい併せて、施業の省力化・低コスト化の推進により、面積当たりの作業量やコストの低減等により生産性を向上し、主伐・再造林の更なる推進を図りたい

イ 防災・減災のための里山の整備

- 事業の周知不足及びそれに起因する森林所有者との協定書締結の遅れから事業実績が低調
 - ⇒ 松くい虫への対策事業と併せて事業実施が可能なこと等も周知し事業執行を図りたい

ウ あたりまえに木のある暮らし推進事業

- 成果目標である箇所数は一定程度達成しているものの、1 箇所あたりの規模が小さく予算執行率が低くなっている。より展示波及効果の高い施設の整備を進めることが必要
 - ⇒ 令和 7 年度から、より波及効果を高めるため、多くの県民が利用する中大規模施設でも事業が利用できるよう補助要件を見直した

(2) 県民ニーズが高いもの

ア 学校林の整備等（学びと育ちの森づくり推進事業）

- 子どもの森林・林業への理解と関心を深め、健全な心と体の育成と林業の担い手の確保を背景に、学校教育の場で森林の活用ニーズが高い状況である。
 - ⇒ 積極的に教育へ取り入れてもらえるよう目標値を上方修正してはどうか

イ ライフライン等の保全対策（市町村森林整備事業）

- 支障木の除去等に対する地域のニーズが依然として高い状況にある
 - ⇒ 緊急性の高い箇所を対象に目標値、活用額を上方修正してはどうか

ウ 緩衝帯の整備（市町村森林整備事業）

- ツキノワグマの里地への出没や人身被害が多数発生しており、対策に関する地域ニーズが高い状況にある
 - ⇒ 対策必要箇所を精査の上、目標値、活用額を上方修正してはどうか

エ 河畔林整備事業

- 近年の災害発生状況から、対策に関する地域のニーズが高い状況にある
 - ⇒ 緊急性の高い箇所を対象に、目標値を上方修正してはどうか

【参考】令和6年度森林税活用事業の実施状況

《県民により身近な場所での取組は概ね順調に進捗》

森や緑等に親しむことのできる環境づくりや森林の多面的利活用の取組、緩衝帯の整備等のより県民の暮らしに近い場所での取組の支援を進めており、令和6年度事業の実績は、概ね目標を達成することができました。

開かれた里山の整備や森林サービス産業等の森林空間利活用の推進等、県民等が森林に触れる機会の創出や森林の魅力の向上・発信する取組が順調に進捗している状況です。

また、県産材を活用した木造・木質化も目標を上回る施設数で取組が進められました。

数 値 指 標	R6 目標	R6 実績
県民が広く親しめる里山整備利用地域の数	10 箇所	13 箇所
森林サービス産業に取り組む地域プロジェクト数	10 プロジェクト	10 プロジェクト
あたりまえに木のある暮らし推進事業（木造・木質化）	11 施設	12 施設
市町村森林整備支援事業（緩衝帯の整備）	38 箇所	37 箇所



木質化の事例（佐久市）



森林サービス産業の取組事例
（森林利活用コーディネーター育成研修等）

《再造林や防災・減災のための里山の整備は目標に届かず》

第4期森林税で新たに取組んでいる再造林の加速化については、カラマツの多い東信地域を中心に進んでいるものの、依然として取組の進捗には地域差があるほか、地拵えの実施後、植栽については翌春に行う箇所も複数あることから、再造林面積の実績が目標を下回る結果となりました。県内全域での主伐・再造林への転換に加え、保育作業の担い手確保に引き続き取り組むほか、施業の省力化や効率化を進めることも求められます。

また、第3期から継続して取組んでいる「防災・減災のための里山整備」では、事業の周知不足及びそれに起因する森林所有者との協定書締結の遅れから実績は目標を下回る結果となりました。

事 業 名	R6 目標	R6 実績
再造林の推進（再造林面積）	420 ヘクタール	238 ヘクタール
防災・減災のための里山整備（間伐）	400 ヘクタール	177 ヘクタール



人工造林・初期保育（植栽・下刈り等）の実施

防災・減災のための里山の整備（南木曾町）